

一牧師室より一

キリスト教界は戦後50年を迎え、日本の教会の歩みを検証する集会や声明が相次いでいる。日本福音キリスト教会連合が総会で「罪責告白文」を採択し公にした。どちらかと言えば社会問題に疎く個人的救霊を力説する教派だけに告白文は目を引く。まず「天皇を現人神とする偶像礼拝の罪を犯しました」と述べ、この偶像礼拝をアジアの教会にも強要し、拒否した多くのキリスト者は投獄され、殉教した。そして日本の侵略戦争をアジア解放をめざす「神の聖なる意志」であると解き積極的に協力した。そこでアジア・太平洋地域で起こった様々な虐殺と蛮行を具体的に列挙している。戦後50年の歩みもキリストの主権を明らかにしてこなかった。罪を認め深く悔い改め、キリストから委託された地の塩・世の光としての光榮ある務めに献身する。最後に「私たちの先祖は罪を犯しました。彼らはもういません。彼らの咎を私たちが背負いました。」と哀歌5章7節の言葉を付記している。

日本カトリック正義と平和協議会も「新しい出発のために」という平和声明を発表した。同じ戦時下での過ちを認めての謝罪表明である。この平和声明は、戦後50年の歩みはアジアに対する経済的、性的搾取であったと反省し「過去に犯した過ちの轍を踏む危険をはらむ」ものであると指摘している。更に天皇制国家主義と民族主義にとらわれていった過程を分析し、キリスト者として「信仰のあり方を問う」必要性を提唱している。

国会の「50年決議」問題は党利、党略がからんでいるようだ。新聞は、遺族会が不戦決議阻止に向け自民党を動かしていると報道した。新聞の「声」の欄で、フィリピンに遺骨収集に行った成田晃一氏は、日の丸をひろげる者も、君が世を歌う者もなかった。遺骨を背負い涙で「埴生の宿」「ふるさと」を歌いながら下山した。成田氏は、夫や父や兄弟が異国でどんな気持ちで屍と化していったかを思えば、遺族会こそ「不戦」を求めるべきではないかと訴えている。

週報

1995年6月4日 聖霊降臨節第1主日
聖霊降臨日(ペンテコステ)礼拝
巻16 10号

1995年度教会主題
「恵みに生きる」

聖句 すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。

コリントの信徒への手紙 二 12章9節a

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

ファックス 045-833-6616

振替 00290-4-13994

牧師 秋吉隆雄